

明治の気風を今に伝える

金倉寺本堂脇にある松の木は「乃木將軍妻返しの松」と呼ばれ、乃木將軍の厳格な軍人らしいエピソードを今に伝えています。

乃木將軍が旧陸軍第11師団長に就任した明治31(1898)年の大晦日、乃木將軍の妻である静子夫人が東京から訪ねてきました。その日は雪が降り、夫人が到着した夕方頃はすでに薄暗くなっていました。取り次ぎの小僧の妙栄坊が急いで乃木將軍にお伝えしましたが、「別に会う必要はないでしょう。」との一言で、夫人は追い返されてしまいます。その帰り道、静子夫人が思案顔でたたずんでいたのが、この松の木の下でした。この話は明治の軍人氣骨と明治女性の姿を今に伝える逸話となり、夫人がたたずんだ松は、いつの頃からか「乃木將軍妻返しの松」と呼ばれるようになりました。

そんなエピソードを秘めて3代目の「乃木將軍妻返しの松」は、時代の変遷を見守っています。



枯れた初代に代わり青々と茂る3代目の妻返しの松



■金蔵寺町1160

●JR金蔵寺駅から徒歩約5分。
金蔵寺境内にある。